



■ 新年のご挨拶



会員の皆様へ 謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本年も新型コロナの流行が続く中で新たな年が明けました。現在、都草は3年にわたるウイズコロナ時代を乗り切り、さらに YouTube 公開動画「京都 都草のとおき」の制作に取り組むなど新たな事業にも挑戦しています。

昨年は歴史探訪会が 100 回目を迎え、京都御苑歴史散策ツアーは 4 コースでの案内を本格的にスタートさせました。また京都通模擬試験の会場実施を再開し、さらに「京の五節句を楽しむ」、「子どもお茶会」など子供たちに日本の伝統文化を伝える事業（「明日の京都文化遺産プラットフォーム」と共催）を再開しました。すっかり定着した歴史彩館・府民協働連続講座による都草講演会を開催、京都府庁旧議場土曜講座も6年目となり、既に30人を超える会員が講師として活躍しています。

『月刊京都』に連載中の「京都ふしぎの玉手箱」もすでに31名もの会員が執筆いたしました。7月には、祇園祭で四条町大船鉾巡行に供奉、大丸京都店の祇園祭展示では祇園祭研究会が協力しました。こういった多彩な活動と成果はひとえに会員の皆様のご尽力とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

いよいよ3月には文化庁が移転してまいります。今後も時代の変化に柔軟に対応しながら、都草のあるべき姿を見失うことなく、会員がやりがいと楽しみを感じる活動を引き続き遂行してまいりたいと存じます。本年もご指導ご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。（理事長 小松 香織）

■ 第11回 都草講演会



令和4年12月18日、京都府立京都学・歴史彩館大ホールにて府民協働連続講座「第11回 都草講演会」を催し、参加者は98名でした。講師には元京都市歴史資料館員の伊東宗裕氏を迎え「計量の歴史と京都の神家（じんけ）」と題して講演していただきました。

第1部では、30年前に計量器の研究に専念された経験をもとに、「はかりの神家と枅の福井家」についてお話しいただきました。計量に用いる度量衡のうち、重さをはかるための「秤（はかり）」は「神家」、量をはかるための「枅（ます）」は「福井家」、いずれも江戸時代初期あるいはそれ以前から続く京都の旧家が、製造および西国三十三国を管理統制する権利を幕府から得ることになりました。ただ歴史の教科書にもほとんど載っておらず、一般的にはあまり知られていないようです。伊東氏は在職中に両家の資料整理に携わってこられ、とくに福井家については『京枅座福井家文書』上下（京都市歴史資料館）に主要なものを翻刻出版されました。その中の一史料『御枅改帳』から年間の枅の製造個数を割り出し、その数が西日本での枅の需要量にはとても足りないことを発見、福井家による枅の支配は限定的であったのではないかと指摘管くださいました。

両家の資料については福井家資料は1990年に重要文化財の指定を受けましたが、神家については古文書約400点、秤などの器物は京都市歴史資料館に寄託されているものの、残念ながら指定の実現には至らなかったようです。

第2部では「ひとりでできる古文書撮影」と題して、伊東氏が自作のスタジオ作りと古文書撮影のノウハウをご披露下さる楽しい時間となりました。（副理事長 松枝 しげ美）

■ 令和4年(2022)の京都検定対策委員会の活動を振り返って



当委員会は、毎年12月に実施される京都商工会議所主催の京都・観光文化検定試験（以下、「京都検定」と略）の対策を目的として、アドバイザーを含めて24名のメンバーで活動しています。

昨年の京都検定は12月11日（日）に実施され、1級検定は18回目でした。ちなみに、1月26日（木）同会議所HPにその合否がサイト掲載されました。

都草では、例年10月に京都通摸擬試験と試験後の解答解説講習を実施しており、京都検定1級受験予定の皆さんが受験されています。昨年は10月16日（日）に16回目の摸擬試験をひと・まち交流館で実施しました（会場受験者は75名）。受験申込者総数203名、うち都草会員は44名でした。

メンバー作成の設問案を、難易度や今年の干支、大河ドラマ、生誕・没後の周年などのトピックスを踏まえて絞り込み、問題文の精査を行い、解答解説講習資料を作成し、摸擬試験に至ります。会場受験者と自宅受験の採点希望者には、粛々と採点を行い、参考資料を添えた採点通知を終えれば、春先から秋までの長丁場のお疲れ様となります。

併せて、メンバーは京都商工会議所や企業（2社）の依頼により、京都検定対策講座の講師も務めています。コロナ禍の中、2社ではオンラインやリモート講座も併用されています。

当委員会は本年も、受験者・受講者の皆様の一助となるよう、京都検定とともに歩んできた活動の充実に努めて参ります。よろしくお願いいたします。（理事 岩崎 勉）

■ 新春 子どもお茶会開催



1月5日（木）「明日の京都文化遺産プラットフォーム」と都草が共催する「新春子どもお茶会」を、3年ぶりに京町家古武邸で開催しました。子供たちに伝統文化に親しみを持ち継承していってもらう目的で、茶道のお点前を拝見しその作法やしきたりを学びながら味わう体験です。小学校3年生から6年生までの子供たちが参加、募集開始早々に定員オーバーになる盛況ぶりでした。

まずは、会場を提供していただいた古武博司氏から、京町家の歴史や仕組みをうかがいました。

お話の後はお抹茶体験です。お茶室での挨拶の仕方、お正月のお菓子「花びら餅」のいわれ、抹茶のお話など、お点前を身近に体験しました。既に茶道のお稽古をしている子供も、初めての子供もみんな楽しそうに花びら餅を口に、口の中が甘くなったところで抹茶をいただきました。ほとんどの子供たちは抹茶を飲み切ってくれ、おいしかったとの感想を話してくれました。今回都草から初めて参加された三宅道子会員はお茶の先生で、初体験の感想文を寄せていただきました。（会員 藤井 久美子）

『ブラボー！都草の新春子どもお茶会』

昨年10月に都草に入会させていただき、1月5日の「新春子どもお茶会」のお手伝いにお声掛けいただき、初めて参加させていただきました。古武家の心のこもった設えの中で、見事に本物の茶道の心を子供たちに伝える企画をお手伝いさせていただきました。子供たちも緊張した趣で、苦くて甘い薄茶を花びら餅と共に味わっていました。私事ですが入会からお茶会のお手伝いのお誘い、当日のお手伝いの段取りのご連絡、そして今日のお茶会までのスピーディーなこと。さすが、都草、お見事でございました。（会員 三宅 道子）